

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0172902587), 法人名 (有限会社オフィスマリヤマ), 事業所名 (グループホーム花 Aユニット), 所在地 (北海道旭川市春光台2条6丁目1番11), 自己評価作成日 (平成30年11月1日), 評価結果市町村受理日 (平成31年3月1日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2018\_022\_kan=true&JigyosyoCd=0172902587-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジェント株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成31年2月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族様と良好な関係があり、対話やお便りなど入居者様との情報共有ができています。
・行事が多く企画され、特に年4回の大型行事には、ほとんどのご家族様が参加されます。
・入居者様は、町内会、学校、幼稚園、地域の方々との交流の場が定期的であり、花の行事、地域行事への参加、ボランティアなどを通じて交流する機会が多くあります。
・畑があり、種から苗を育て入居者様と共に活動の場となっている。また畑に菜山子を作り、地域で話題になっている。(毎年キャラクターが変更される)
・防災への意識が高く、夜間想定避難訓練は全職員を対象にして何度も行っている。それ以外の春と秋の日中想定避難訓練では、地域の方と一緒にしている。
・ヒヤリハット・事故報告の徹底を図り、その分析や話し合いの機会をつくり、事故防止に繋がっている。
・口腔ケアの質を高め、誤嚥性肺炎の発症防止に活かされています。また、看取りケアへも生かされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族会の定期的開催や交流などで家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を楽しんでいる。平成18年3月開設の木造軸組構造2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
地元高校で「認知症サポーター養成講座」の講師を務めたり、クリスマス会や事業所主催の夏祭りでは、高校の合唱部や近隣の高校生、地域ボランティアの協力を得たり、地域のフラワーロードで花の手入れや清掃事業への参加、市内高校生の実習の受け入れなどを通じて、事業所自体が地域の一員として日常的に交流・連携に取り組んでいる。また、近隣散歩や買い物、神社での初詣、板前さんと呼んで寿司を握ってもらったり、四季に応じた収穫祭や敬老会、大新年会の開催など戸外に出かける支援や楽しみごとへの支援を積極的に行っている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Scale (1-4), and Evaluation (radio buttons). Rows 56-62 cover various aspects of staff, user, and family satisfaction and safety.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・年一回理念についての勉強会を開き、指針を明確化するとともに、半年に一度評価を行い、次年度につなげている。また、理念を基にした各自の目標や取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送り等で理念を読み上げ、全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。	事業所独自の理念を作り、半年ごとに振り返りを行いながら、各自の具体的な目標を掲げ、その理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の役員を務め、会議や行事へ参加しながら互いの意見の交換の場を作っている。 ・花主催の夏祭りは、地域のお祭りとして定着している。また、たくさんの町内や学生の皆さんにボランティアにてお手伝いを頂いている。 ・入居者様やスタッフは、地域のお祭り等に積極的に参加して交流の場を作っている。	地元高校で「認知症サポーター養成講座」の講師を務めたり、クリスマス会や事業所主催の夏祭りでは、高校の合唱部や近隣の高校等の協力を得たり、地域の清掃事業への参加などを通じて事業所自体が地域の一員として日常的に交流・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・高等学校で認知症サポーター養成講座を開催している。また、交流会や実習の受け入れを積極的に行っている。 ・地域の皆さんからの施設選びや認知症対応についての相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・事故、ヒヤリハット報告、家族からの苦情などを運営推進会議に報告して意見を頂き、サービス向上に努めている。 ・運営推進会議の開催することにより、地域行事(フラワロード事業、地域のお祭り等)への参加しやすい環境を整えている。	運営推進会議を2か月毎に開催して、事業所の取り組みや地域との連携など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持に努めている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている	市担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・花の方針として身体拘束は行わないが、身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、身体拘束があれば報告するようにしている。 ・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会を作っている。 ・夜間以外は玄関の鍵をかけることはなく、入居者様が外に出たい時は職員と一緒に出ている。	外部研修参加や身体拘束廃止や高齢者虐待、接遇マナー等の内部研修開催で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会をもうけている。 ・痣や傷の大きさが0.5mm位の小さなものでもユニット内で共有し、牽制し合う体制ができています。 ・職員への精神面のフォローとして、役席によるスタッフへのカウンセリングを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は、十分な時間を取り説明を行っている。その後についても施設とご家族様が互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点については都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会があり、家族会主催の行事(苗植えの会)を開催して、準備の段階を含めてご家族様とスタッフとの親交が図られている。家族会総会において、苦情、事故、行事等の報告や要望を聞き対応するとともに、親交も図っている。 ・定期的に行なわれている運営推進会議に、入居者様とご家族様にも参加していただき、意見をいただいている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時に書面にて苦情要望等の情報を収集して対応している。	家族会の開催で意見や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、毎月「花の便り」を発行して、日常の生活の様子や健康状態等の情報を提供し、意見や要望等を言い表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日朝夕の申し送り時や、全体会議やユニット会議等で、職員の意見を聞き、業務に反映している。	全体会議やユニット会議等を通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアパス制度を導入するとともに、毎年10月に職員の昇給昇格を行っている。 ・職員に対して、内外の研修に積極的に参加できる機会を作っている。 ・資格試験の合格者に対して全体会議で表彰している。また報奨金や資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月一度内部研修を開き、外部から講師を招いたりもしながら研修を重ねている。また、外部研修も積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・地域のSOSネットワークへの協力や地域の介護施設で共同研修会を開催して交流の機会を作っている。 ・お祭りや視察などを通じて他のグループホームとの交流を重ね、自分たちのケアの質や取り組み姿勢について考える機会がある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や家庭訪問を行い、面談でご本人様に身体、生活面、既往歴などの確認と、不安、要望等を聞き、安心していただける様に関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や家庭訪問を行い、ご家族様に困っている点、不安、要望等を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や観察で情報を共有し必要な支援を見極め、デイサービス又は入居に取り組めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、食事作り、買い物、畑の収穫、散歩、作業など、日常生活を共に関わり出来ることは力を発揮していただき、出来ないところを手伝うという関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事で参加される家族との交流の場が多く、毎月発行の通信や電話や面会時に近況報告などを伝えたり、家族と力を合わせ入居者様の支援に共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や年賀状などで途切れない様に支援している。馴染みの方が面会に来られた時には次にも来訪したくなるように支援している。家族の協力で買い物や外食、墓参り、お寺、自宅、結婚式へ出かけている。	初詣に出かけたり、買い物や近隣散歩、地域の行事参加、家族会との交流等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席は孤立しない様に性格、相性、介護状態を見極めて決め、入居者様同士が会話や家事手伝いを通して関わり合い支え合えるように声掛けや見守りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退去したり、亡くなったりした利用者様のご家族様と交流があり、花にお茶を飲みに来たり、ウエスなどを寄贈していただいたりするなど、とても良い関係を保っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様からの情報集めとスタッフ間での観察や気づきを共有し合い、本人本位に思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、モニタリングやユニット会議等を通じて職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報ファイルの把握とスタッフ間の情報共有に努めている。ご家族様から情報収集することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、食事量、水分量、排泄、体調、生活状況などを記録し、スタッフ間で状況把握し共有に努めている。また、体調不良の方にはその方に合わせ、AM、PM、就寝時とバイタル測定もしている。まだ経験が浅く、把握しきれないスタッフもいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の日常生活の観察と困っていることの要望とご家族様からの意見も聞き、モニタリングを行いミーティングやカンファレンスし、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、担当者会議やモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映して現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを実施し介護記録に記入するように努めているが、全ては記入できていない。スタッフ間で申し送りや記録で共有に努めている。見直す点は会議で検討し、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れている。 ・ボランティアや地域資源を生かした取り組みに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の商店に買い物に行ったり、近くの神社や公園を利用して楽しみを広げるよう努めている。 ・地域のお祭りに積極的に参加して入居者様スタッフ共に楽しんでいる。 ・困った事があれば、地域の民生委員、地区社協、地域包括支援センター、町内会の方々に気軽に相談している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を聞き、納得が得られたかかりつけ医を選択し、医療との連携がいつでも取れるように支援している。看護師が事業所に勤務している為、看護師にもいつでも相談出来る。	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や常勤看護師との連携、日常の健康管理や通院への対応等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師にいつでも相談出来る体制になっている。また、事業所の看護師にも様子観察と情報の共有と相談が出来るようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、状況や情報を伝え適切に治療が進められるようにしている。早期退院が出来るように病院や家族と情報交換に努め、ご本人様の入院時の観察を行い、病院に関われるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	状態に応じてかかりつけ医とご家族様、事業所とでムンテラを行い、方針をスタッフ間で共有して支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。また、ターミナルケアをチームで実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは所定の場所に設置しており、実践で生かされている。勉強会に参加して学び、実践力が身に付くように努め、急変や事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・日中想定した避難訓練を春秋一度づつ行い、地域の方にも参加していただいている。またこのとき消防設備業者に来ていただき、設備点検と職員に対しての設備仕様説明を行い、勤務者全員が火災報知機の作動させたり、消火器による消火訓練を行っている。 ・上記以外でも夜間想定した火災避難訓練を何度も行い、全ての職員が夜間対応の訓練を行っている。 ・ブラックアウトの時も混乱なく対応できた。	日中を想定した火災避難訓練を年2回、夜間を想定した避難訓練を年6回実施している。また、火災設備説明会、火災報知器体験会、消火訓練などを実施している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや言い回しが冷たかったり、親しみある言葉を使ってしまうことがある。精神的に追い詰められている時に傷つく言葉を返していることやプライバシーの確保が出来ていない時もあるのではと考え話し合うこともある。	接遇マナーや身体拘束廃止、高齢者虐待防止等の内部研修会開催や外部研修会参加等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように声かけ等を職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には働きかけ、決められる様に雰囲気作りもしているが、まだ経験不足で出来ないスタッフもいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入浴や食事に決まりごとはあるが、出来るだけ希望に添えるように支援している。まだ経験不足で出来ないスタッフもいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様で自由に衣類を選ぶ方もいるが、困難な方でもスタッフが似合う衣類を選択したり、汚れている時には着替えも勧めている。また、お化粧をしたり訪問理容でカットや毛染めも行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けをスタッフと一緒にこなしている。一日の献立をボードに記載し、楽しみになるようにしている。週1回献立を考え、買出し、一緒に作る。畑の野菜を収穫して一品増やしたりもしている。	時には板前さんと呼んで寿司を握ってもらうなど食事が楽しみなものになるよう支援している。また、職員と一緒に食材の買い出しや食事の準備、盛り付けや配膳、食事や後片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事と水分量、形態の把握をして提供している。栄養管理されている食事が提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケア技術向上の為に勉強会に参加している。一人ひとりに合ったケア用品を使用し、本人の力に応じた口腔ケアをしている。時々ケアを拒否されることもあるが、スタッフ間で連携を取り、清潔保持出来るように取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し誘導や声掛けを実施している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳1杯と週2回のバナナミルク提供をしている。毎日の家事手伝いや体操・回廊歩きなどで体を動かすように誘って便秘予防出来るようにし、排便状況の把握に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週3回の入浴が出来るように実施している。湯の温度や入浴時間の希望を取っている。体調不良になられた方には清拭を行い、翌日に入浴をずらすことも行っている。	週3回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じた柔軟な入浴支援をしている。また、温度や入浴時間など希望に合わせた対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の必要な方々には休んでもらっている。日中の活動によって夜間眠れるように過ごしている。夜テレビを観みたり入居者様同士お話をしたりなど、一人ひとりの生活習慣にあった支援をしている。眠れない方がいる時には、リビングで話を聞いたりしながら気分を変えていただく事で、夜間眠って頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報ファイルに処方の一覧が綴じてある。薬の変更時には、様子観察を行い、必ず申し送りやノートなどに記載し、他のスタッフも理解出来るように努めている。注意点があれば事業所の看護師からアドバイスもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や遊び、畑の収穫、散歩や買い物、行事や地域の活動などで張り合いや楽しみを作ったり、ご本人の希望で、ジュースなど嗜好品を提供している方もいる。				
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物も希望があればお誘いし、買い物へ一緒に行く様に努めている。選挙に出掛ける方や近くのコンビニで買い物をする方もいる。遠目見守りの中、戸外や畑、駐車場と見てくる方が毎日自由に入出入りしている。週2回の買い物と一緒に出掛けることもある。地域活動や行事で外に出たり、ご家族様の協力で外出して来る方もいる。日中は玄関に鍵がかかっていない為、自由に入出入りが出来るようになっている。	近隣散歩や買い物、神社での初詣、板前さんを呼んで寿司を握ってもらったり、四季に応じた収穫祭や敬老会、大新年会の開催など戸外に出かける支援や楽しみごとへの支援を積極的にしている。また、高校の合唱部や近隣の高校生、地域ボランティアの協力を得たり、幼稚園児との交流や地域のフラワーロードへの協力をしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している入居者様は2名おり、自由に使われている。買い物の希望があれば買い物へ一緒に行くようにしている。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話が使えるようになっているが、関わる事が出来なかったスタッフもいる。携帯電話を所持している入居者様が1名いる。手作りの年賀状を作成し家族や大切な方とやり取りがある。				
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い事業所で、所々に生花が飾られている。廊下に笑顔の多い写真が飾られており、行事などで楽しんだ様子がわかるようになっている。広いベランダに野鳥が来る環境が作られていて、外の景色もよく見えるので季節感も感じられる。広い浴室でゆったりと入浴でき、ホーム内の空気の入替えや温度調整、臭いにも気にかけている。	共用空間では、行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾りつけなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士で過ごしている。他にも好きな様に移動して過ごせるように数か所にイス、テーブルなどが設置されている。				
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れていた家具や小物、アルバムなどを持ち込まれている。	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、居室からの景観が良く、四季を感じられるように配慮されている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間や居室に手すりがあり、利用されている方が多い。フローリングが滑りにくい。入居者様の状態に合わせて家具の配置換えをして、安全かつ自立した生活を送ってもらえる様に工夫している。				

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902587		
法人名	有限会社オフィスモリヤマ		
事業所名	グループホーム花 Bユニット		
所在地	北海道旭川市春光台2条6丁目1番11		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=0172902587-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=0172902587-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成31年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ご家族様と良好な関係があり、対話やお便りなど入居者様との情報共有ができています。
- ・行事が多く企画され、特に年4回の大型行事には、ほとんどのご家族様が参加されます。
- ・入居者様は、町内会、学校、幼稚園、地域の方々との交流の場が定期的であり、花の行事、地域行事への参加、ボランティアなどを通じて交流する機会が多くあります。
- ・畑があり、種から苗を育て入居者様と共に活動の場となっている。また畑に案山子を作り、地域で話題になっている。(毎年キャラクターが変更される)
- ・防災への意識が高く、夜間想定避難訓練は全職員を対象にして何度も行っている。それ以外の春と秋の日中想定避難訓練では、地域の方と一緒にしている。
- ・ヒヤリハット・事故報告の徹底を図り、その分析や話し合いの機会をつくり、事故防止に繋がっている。
- ・口腔ケアの質を高め、誤嚥性肺炎の発症防止に活かされています。また、看取りケアへも生かされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

### 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・年一回理念についての勉強会を開き、指針を明確化するとともに、半年に一度評価を行い、次年度につなげている。また、理念を基にした各自の目標や取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送り等で理念を読み上げ、全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の役員を務め、会議や行事へ参加しながら互いの意見の交換の場を作っている。 ・花主催の夏祭りは、地域のお祭りとして定着している。また、たくさんの町内や学生の皆さんにボランティアにてお手伝いを頂いている。 ・入居者様やスタッフは、地域のお祭り等に積極的に参加して交流の場を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・高等学校で認知症サポーター養成講座を開催している。また、交流会や実習の受け入れを積極的に行っている。 ・地域の皆さんからの施設選びや認知症対応についての相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・事故、ヒヤリハット報告、家族からの苦情などを運営推進会議に報告して意見を頂き、サービス向上に努めている。 ・運営推進会議の開催することにより、地域行事(フラワロード事業、地域のお祭り等)への参加しやすい環境を整えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持に努めている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・花の方針として身体拘束は行わないが、身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、身体拘束があれば報告するようにしている。 ・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会を作っている。 ・夜間以外は玄関の鍵をかけることはなく、入居者様が外に出たい時は職員と一緒に出ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会をもうけている。 ・痣や傷の大きさが0.5mm位の小さなものでもユニット内で共有し、牽制し合う体制ができています。 ・職員への精神面のフォローとして、役席によるスタッフへのカウンセリングを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は、十分な時間を取り説明を行っている。その後についても施設とご家族様が互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点については都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会があり、家族会主催の行事(苗植えの会)を開催して、準備の段階を含めてご家族様とスタッフとの親交が図られている。家族会総会において、苦情、事故、行事等の報告や要望を聞き対応するとともに、親交も図っている。 ・定期的に行なわれている運営推進会議に、入居者様とご家族様にも参加していただき、意見をいただいている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時に書面にて苦情要望等の情報を収集して対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日朝夕の申し送り時や、全体会議やユニット会議等で、職員の意見を聞き、業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアパス制度を導入するとともに、毎年10月に職員の昇給昇格を行っている。 ・職員に対して、内外の研修に積極的に参加できる機会を作っている。 ・資格試験の合格者に対して全体会議で表彰している。また報奨金や資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月一度内部研修を開き、外部から講師を招いたりもしながら研修を重ねている。また、外部研修も積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・地域のSOSネットワークへの協力や地域の介護施設で共同研修会を開催して交流の機会を作っている。 ・お祭りや視察などを通じて他のグループホームとの交流を重ね、自分たちのケアの質や取り組み姿勢について考える機会がある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居者様の現状を家庭訪問や見学などで把握し、日常の様子を観察しながら、ご本人との関わりを持ち、他スタッフとの情報交換をしながらコミュニケーションの時間を多く取るよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に入居者様の現状を家庭訪問や見学など利用開始前に、ご家族様の不安や希望を確認をしている。そして利用開始時からの様子をこまめに報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の把握とご本人とご家族様からの情報収集をすること。そのうえで、暫定プランを立案し今必要なサービスについて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の在宅での生活の様子から、今できる事得意な事、習慣として続けたいことなどを十分に情報を得て、様子をみながら検討をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、普段のご面会や電話、行事を通じてご家族様と話す機会を持つようになっている。その中で外出支援などご家族様へのご協力を頂くお願いも行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会の機会や外出の機会が持てる様に、関わりを持っている。ご面会の機会には、くつろげる環境を整えられるように、努力をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業など個々に合わせて他者との関わりが持てる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退去したり、亡くなったりした利用者様のご家族様と交流があり、花にお茶を飲みに来たり、ウエスなどを寄贈していただいたりするなど、とても良い関係を保っている。		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族様から見たご本人の思いなどを可能な限り把握出来る様に、関わりを持ち、スタッフ全員で周知して取り組めるように努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に、情報収集をしている。可能な限り自宅での暮らし方を活かせるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来ること、支援が必要なことを把握して、その時その時の状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングや毎日の会議の中で、課題についての話し合いを行い、その都度新たな提案を取り入れ、プランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時その時に記録すべき点、観察すべき点などを申し送り等で周知できるように、取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れられている。 ・ボランティアや地域資源を生かした取り組みに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の商店に買い物に行ったり、近くの神社や公園を利用して楽しみを広げるよう努めている。 ・地域のお祭りに積極的に参加して入居者様スタッフ共に楽しんでいる。 ・困った事があれば、地域の民生委員、地区社協、地域包括支援センター、町内会の方々に気軽に相談している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を決定する際には、ご本人・ご家族様のご意向を確認し、話し合い納得を受け決定している。主治医へは、可能な限り十分な情報を提供が出来る様に、努力をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の体調や困りごとについては、その時その時に報告し相談をしている。ご本人にとって必要な情報が伝わる様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時入院中には、ご家族様を含めて状態把握を行い、一日も早く戻れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	その時々状態に合わせて、医師を含めたご家族さまとの意向確認を行い、看取りに向けた支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員からの緊急時対応マニュアルをもとに報告のシステムにて、対応ができるようにしている。その時々に合わせて、勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・日中想定避難訓練を春秋一度づつ行い、地域の方にも参加していただいている。またこのとき消防設備業者に来ていただき、設備点検と職員に対しての設備仕様説明を行い、勤務者全員が火災報知機の作動させたり、消火器による消火訓練を行っている。 ・上記以外でも夜間想定火災避難訓練を何度も行い、全ての職員が夜間対応の訓練を行っている。 ・ブラックアウトの時も混乱なく対応できた。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の使いかたに関しては、まだ不十分な状態である為、不適切ケア防止について取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との関わりにおいて、意思確認を必ずして働きかけるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	何をするのに、ご本人の意思確認を大切に出来る様に取り組んでいる。日課や行事時には、参加できる気持ちが向く様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方、支援の必要な方に合わせて支援をしている。起床時やお昼寝後のヘアに関しては特に、気を配れるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを話題にお話しをしたり、盛り付けや調理に参加して頂いたり味見に参加して頂くなど、個々に合わせた支援が出来る。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や、その時々状態に合わせて支援をしている。ユニットスタッフが周知して行えるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、個々に合わせたケアを行い、毎日チェックしながら良い状態が保てるように取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り、個々の排泄パターンに合わせてトイレで排泄出来る様に取り組んでいる。寝たきりの方も、一日数回トイレに腰かける時間を持っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた水分量や、運動の機会を持っている。またバナナジュースやヨーグルトを食べる機会を定期的にもったり、食物繊維の多い食材の提供をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々に合わせたタイミングで入浴して頂けるように、取り組んでいる。特に入浴の嫌いな方への関わりには、気を使っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力に合わせて、その時の状態に合わせて対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬が出来る様に、個々に合わせた対応をしている、確実な服薬支援の為のマニュアルを徹底している。 細かな事故やヒヤリハット報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にとっての、役割・楽しみは何かを把握し日常生活に活かせる様に取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望に合わせた対応に取り組んでいる。ご家族様との外出時には、安心出来る様に協力をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人からの希望があった場合には、その時々に合わせて対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段の電話や、年賀状の支援などの機会を提供をしている。ご本人からの希望には、最優先して支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音には、気を配っている。特に定期的に換気を行っている。入浴時や脱衣時には、その時の気温に合わせて調整している。季節に合わせたお花や飾り装飾をしている。環境によって混乱しやすい方には、その都度対応が出来る様に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のテーブル席には、ご本人やその時々に合わせて取り組んでいる。特に入居者様同士の関係には、気配りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、可能な限り馴染みあるものを置いて頂いている。ご自身が、ご自分の部屋であることが理解でき、安心できる空間になる様に取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事を、力を活かせる様に環境を整え取り組んでいる。転倒の危険性が高い方には、特につかまりながら移動出来る環境を整え、見守りを強化している。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム花

作成日：平成 31年 2月 28日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	尊重・尊敬のある適切な言葉の使い方ができていない。	敬語を使い適切な言葉遣いが当たり前になる	① 不適切な言葉遣いを洗い出しする。 ② 不適切な言葉を使わないことの徹底 ③ スタッフ間で牽制する。 ④ 敬語が当たり前になる	1年
2	48	気分転換や楽しみ事の時間がもてる時間がすくない。	気分転換・楽しみごとが提供できる。	① 一日1回 気分転換や楽しみごとを提供する。 ② 会議でその月での内容提案をする。 ③ 皆が協力して行う。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。